

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100249		
法人名	医療法人社団 藤花会		
事業所名	花平の郷		
所在地	浜松市北区引佐町花平725-1		
自己評価作成日	平成22年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOリブグリーン		
所在地	〒410-0822 静岡県沼津市下香貫宮脇323-3		
訪問調査日	平成22年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく楽しくのんびりと生きがいのある生活」を送っていただけるように努めている。個々の生活リズムを大切に、それまでのリズムに近づけるよう入浴は夕方からとしている。また、行事にも力を入れ、誕生日は自宅へお連れしたり、好きなものを食べて頂くなど希望に沿った内容を企画している。毎月の食事会では手作りにて季節を感じられる料理や、要望を伺い出前や外食も定期的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は素晴らしい眺望が広がる丘の上に位置し、建物を囲む庭は広く、整えられた花壇も暖かさが感じられます。日当りは抜群で、天井は高く自然の景色がいつでも眺められ、開放的な明るい平屋造りです。職員の明るい笑顔と声も溢れています。施設内は清潔に保たれ、入居者の笑顔からは、尊厳あるケアが伺えます。入居者一人ひとりのアセスメントにも、細かな工夫と配慮が見られ施設長及び職員間の連携にて、日々のケアに反映されています。また、現状に合わせて職員の動きを替えていこうと、マニュアルの見直しなど、検討会議を繰り返し前向きに取り組みられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の皆さんから愛されるホーム」を理念として開設から掲げ、全職員に基本理念を配布し、各所に掲示している。常に意識し自己の振り返りが出来るようにしている。	事業所が掲げる、「地域の皆さんから愛されるホーム」を目指して、常に意識できるよう、全職員が暗唱しています。明るく楽しく、のんびりと、利用者の方々のペースに合わせたケアを実践しています。また会議の中でも皆で確認しあって生かしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域が主催するお祭りや運動会などへ参加させて頂きホームが主催する催しへは地域の皆様を招待するなど交流を図っている。普段の散歩にて途中、たち話しなど日常的に交流は図れている。	地域の行事、事業所の催しを通して参加交流があります。老人会の方々からは施設の草取りなどにも来ていただき、普段の散歩では地域の方からの声掛けや立ち話、互いに作ったもののおすそ分けなど、ごく普通のお付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催のセミナーを随時行い、地域の方々へ「認知症について」などわかりやすく、理解や支援の方法に対し説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催を開始以来継続しており、情報交換及びサービスの向上に努めている。	会議は定期的に継続できています。議題ではご家族・行政・地域の方と情報交換ができ、ざっくばらんな話ができています。しかし、ご家族の参加の割合については、毎回呼びかけてはいるものの、日程等の条件が合わず少なめです。	ご家族が、一人でも多く参加できる会議での話し合い、情報交換ができるような、さらなる工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会への出席や運営推進会議を開催することで、行政職員や地域包括支援センターの方々との協力関係が保たれている。	3か月に一度開催される事業者連絡会には必ず出席し、情報交換をしています。また、2か月に一度の運営推進会議では行政・地域包括支援センターの方々とは気軽に相談ができ、良い協力関係作りに取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に「高齢者の尊厳を守る会」を設置し、全職員に対し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体としての「高齢者の尊厳を守る会」を設置しており、毎月各部署の職員が出席し内部で研修を行うなど認識を高めています。事業所ではセンサーの利用や、見守り・付き添いを行い、自由な行動に配慮していますが、夜間のみ利用者の安全を考えて、玄関と窓は施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者の尊厳を守る会」にて虐待についても全職員に指導している。スピーチロックなど無意識にされていないか、職員同士で注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当者を決め、必要な研修に参加している。ご家族・ご本人が望まれば担当弁護士との話し合い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の段階でしっかり契約についての説明を行い理解して頂いている。改定などがあれば案内にてお知らせの後、面会時に詳しく説明をし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも声を掛けて頂ける雰囲気作りに努めているが、言い難い方の為に「意見箱」を設置している。出された意見に関しては、その回答を記し、掲示板に張り出すように決めている。	職員はどなたにも明るく接する事に心がけています。「意見箱」への意見はなく、ご家族は担当職員に何でも直接相談され、その場で解決しています。取り組んだ意見等は施設内で開示しています。	利用者や家族の意見や要望を、一つでも多く引き出されるように、さらなる工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的にユニット会議を行い、意見や提案を確認している。施設長が法人の運営会議に参加しており、必要な内容は直接運営会議に持ち込んでいる。	各職員が予め自分の意見、思っていることをテーマとしてまとめ、ユニット会議の中で確認し提案しています。運営に関する職員の意見や提案内容は、施設長に相談しやすい状況で反映しやすくなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表管理や、管理者から業務・勤務状況等を報告されている。職員満足度を高められるよう常に意識し、職員からの声に耳を傾け、職員用意見箱を設置し、本音を探っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて毎年毎月のテーマを掲げ職員が職員のための内容を決め、全体研修会として取り組んでいる。各部署でもそれぞれ必要な勉強会を随時行っており、外部研修へも参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加盟し、研修会等へ参加することで、情報交換や施設見学を行っている。他施設からの管理者研修も受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の悩み、悲しみなどが理解できるように、傾聴に努めている。ご家族からも意見を確認した上で、ご本人の不安が少しでも軽減されるような取り組みを行い、信頼していただける関係を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み・相談事などは耳をしっかりと傾け、不安の軽減に繋がるような言葉掛けを行い、信頼して頂ける関係を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を把握し、その方にとってもっとも適切なサービスが提供できる場所はどこかを考えながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決して無理強いはいませんが、お願い出来る事はして頂いている。一緒に洗濯物をたたんだり、味噌汁の味見をして頂いたり、畑仕事でも助言等を頂きながら楽しく生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会にて、介助方法や移乗方法などの勉強会を家族に向けて行っている。また、服薬指導など随時行い、一緒に介護をしているんだという意識を少しでも持ってもらえるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は明るい笑顔と言葉掛けを心がけ、友人や親戚の方でも面会に来易い雰囲気を作っている。馴染みのある場所へのドライブや、誕生日に自宅へお連れしたり、家族から電話をかけて頂いたり家族からの協力も得ている。	利用者に地元の方が多くこともあり、日頃から馴染みの友人や親戚の方が気軽に面会に来ています。ご家族の協力も得ながら、自宅や、馴染みの場所で馴染みの人たちに集まっていただく支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、そうでない人がいる為、テーブルの席には気を使っている。その中で洗濯物たたみ等の仕事としてや、歌等レクリエーションをそれぞれ複数にて行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている場合、随時面会に行かせてもらい状態の把握とともに施設としてお力になれることは何かを考え、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人より意向・要望を確認しているが困難な場合はご家族からの意見を参考に、生活歴・趣味・職歴などを把握した上で検討している。	入居前にご本人やご家族から意向・要望を確認していますが、意思表示が困難な方であっても、10年ごとに刻んだ年代別生活歴・趣味・職歴なども細かく把握できるアセスメントを活用し、いろいろな角度から・利用者の意向の把握ができるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問で可能であればご自宅での実際の様子を確認させて頂くとともに「バックグラウンドアセスメント表」への記入をご家族にお願いし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を職員間にて毎日申し送りをし、記録に残すことで状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となり他職員からも情報を得た上で計画作成者とカンファレンスを開き計画作成を行う。ご家族またはご本人への説明・同意を頂き計画書の完成としている。	利用者本位の生活を豊に、又医療面でも安心な介護計画づくりが構築されています。同法人からPT・OT・歯科衛生師等も介護計画に協働し、ご本人またはご家族に説明・同意をいただいで作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画記録に毎日時間を追っての記録を残している。その他、介護日誌及び連絡ノートを用い情報の共有を図りながらけあに当たっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの地元へのドライブや、誕生日に自宅までお連れし、家族と過ごす時間を作ることもしている。希望に応じ美容院への送迎や受診時の付き添いも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアによる歌・踊りなどは随時受け入れている。防災訓練では消防署より訓練用消火器をお借りし、入居者とともに消火訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的又は随時、診療の付き添いをし、必要な情報を提供している。	地元の方が多く、ほとんどの方が従来から協力医が元々のかかりつけ医であり、職員が付き添い定期または随時通院しています。必要があれば往診も可能です。専門医が必要な場合は、ご家族の協力で通院しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職でもあり、日々の様子と違うことがあれば、すぐ連絡・相談している。状況により、隣接している介護老人保健施設の看護師に応援を要請している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁にご面会へ伺い、状態の把握に努めるとともに、病院スタッフとも状況・状態の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族へ説明をし、入居後状態に応じ、タイミングを図りながら、ご家族・医師・施設職員とで話し合う場を作っている。	入居時に看取りについての事業所の方針を説明、意向確認をしています。また急変時や治療を必要とする場合もあり、事業所でできることを医師との連携のもと、ご家族・職員で話し合っています。希望・状態により、できる限り事業所で看取る方針は共有されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って全職員に対し、勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練にて、避難・誘導等の訓練を行っている。近隣の方々にも参加して頂いたり、地域の防災訓練には職員が参加している。	年2回の防災訓練では、夜間を想定した実際の人数で行っています。地元の方にも参加・協力していただき、防災の意識を高めています。地域の防災訓練には職員が参加して協力体制を深めています。	全職員の意識向上、地域との協力体制のさらなる強化を期待をします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職歴・生活歴などを考慮し、その方の人格を尊重した上での言葉掛けや対応を心がけている。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけに努めながら、職員の年齢性別で違って、安心される対応をしています。職員間や会議の中で、振り返り話し合っています。排泄ケアにも尊厳ある工夫が見られます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に着る衣類の選択や、入浴するかしらないか等、ご本人と相談し納得してもらいながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の状況や、要望などを尊重し、当日の予定を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物に行ける方は衣類などご自分で選んで購入してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が各テーブルへ均等に分かれ、それぞれで楽しく語らいながらの食事を心がけている。静かに食べたい方、介助の必要な方などその方の要望も踏まえた上で、テーブル配置も状況で変えている。行って下さる方へは食器拭きなどもお願いしている。	職員も一緒に談笑しながら、ゆつくりとした雰囲気の中、食事をされています。食事中は静かにと、居室を希望された方にも、思いに寄り添っています。後片付けは利用者間の思いもあり、役割分担を楽しみに行ってくださる方もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックしている。嗜好も伺っており、苦手な物を避けたり食べにくい物を刻んだり、その方に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、洗面所にて歯磨きを行っている。困難な方へは綿花を用いたり、歯科衛生士より助言をもらいながら口腔ケアに当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェック表にてパターンを把握した上で声掛けをし、トイレでの排泄を促している。	個別に合わせた時間や介助方法をとっています。基本的には尿意が困難な方も含め、日中は全員トイレで排泄を支援していますが、夜間は、排泄より眠りを優先したほうが良い方もおり、その方に限りオムツで対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂って頂くようにし、飲みにくい方へはトロミを付けて勧めている。随時便秘体操も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行い、希望される方は毎日入れるようになっていく。15:30~20:00の間で入って頂くようお願いしている。	入浴嫌いな方には入浴剤などを工夫して、温泉気分でお誘いし、TV時間を優先される方もあり、様々な対応に取り組んでいます。おやつの後や夕食後など、その方の気持ちに添って楽しんでいただいています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝巻きや寝具など、それまでの習慣に合わせて、落ち着いて休まれるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬ケースにそれぞれの容量を記載し、配薬の都度確認出来る様になっている。副作用、用法等について全スタッフに資料を配布し、勉強会の中で指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・畑仕事・草取りなどそれまでご自宅で頑張っておられた方で、入居中も頑張って下さる方にはどんどん行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	庭には花壇・畑・池があり日中自由に庭で過ごすことができる。行事として行楽地等にもお連れするが、ご家族へも呼びかけている。	午後にはゆとりの時間を設け、天候を見て近隣の散歩を楽しめるような仕組みがあります。遠方への外出は、法人内の福祉車両を借りて、行楽地や、年始のお参り等に出かけています。ご本人の希望や思いもくみ、外出時はご家族に呼びかけ協力していただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、所持してもらうよう支援し、管理が困難な方であっても可能な限り、ご自分で支払いをされるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある限りお手伝いをし、電話でも直接お話しをして頂いている。書けない方には代筆にて毎年ご家族宛にご本人からの年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓や排煙窓にて直接日光を遮りながら自然な風も確保している。	天窓や排煙窓にて直射日光を遮り、自然な光も風も採り入れやすくなっています。食堂から臨む芝生と花いっぱい庭、その先に広がる山々の景色から、季節感をいつでも感じ取ることができます。また、玄関や廊下・食堂には絵や植物が飾ってあり、おちついた雰囲気になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファや畳の間があり、思い思いに過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は持ち込みとし、出来る限り馴染みある環境を作られるようご家族へ依頼している。	入居前の部屋の環境を確認し、居室のレイアウトをご本人・ご家族に考えてもらい、可能な限り使い慣れた部屋に近づくよう、家具の配置しています。家具は馴染みものを持参してもらい、ご本人の希望や生活感に合わせた工夫がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の家具には手すりを取り付け、バリアフリーに徹している。トイレも車椅子の方が入れられるよう広さを確保している。		